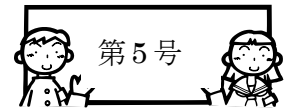


PTAだより



2018.10.16
西落合中学校PTA



☆会長あいさつ☆

台風の接近で心配されていました体育会。

天気も何とか持ちこたえてくれて、無事に開催されました。

「英姿颯爽～さらなる高みを～」のスローガンのもと、各クラス一丸となったりレー競技や、生徒全員での組マスゲームも日頃の練習の成果を存分に発揮し、迫力満点の演技でした。

また、PTA競技では、たくさんのご参加・ご協力ありがとうございました。

今年の反省点を改善し、来年はさらに盛り上がる競技にしたいと思います。みなさまのご協力よろしくお願いたします。

次は文化祭です。

午前中は「音楽コンクール・展示鑑賞」、午後からは「文化祭舞台の部・展示鑑賞」と2部構成になっています。仲間たちとの美しいハーモニー、生徒一人一人の作品、舞台鑑賞もとても楽しみです。

☆校長先生のお話☆

天候が心配された体育会でしたが、お昼にわずかな時間中断を余儀なくされたものの、すべてのプログラムを無事終えることができ、たいへん喜んでおります。

PTAの方々におかれましては、来賓の受付、飲み物の差し入れ、PTA演技の準備・進行、パイプ椅子の片づけなど、多くの場面で体育会を支えていただきありがとうございました。今年度も生徒たちだけでなく、地域や保護者の方にも感動していただける体育会になったことを心より嬉しく思います。

学校は中間考査を終え、文化祭に向けて始動したところです。今年度は、各クラス課題曲と自由曲の2曲に取り組んでいます。また、展示の部ではPTAの作品も展示するなどの試みにもチャレンジしています。一人でも多くの保護者の方のご来校をお待ちしております。

☆主な行事予定☆



10/20(土)	文化祭
10/22(月)	代休
11/5(月)～9(金)	2年トライやる・ウィーク
11/6(火)	3年実力テスト
11/16(金)・17(土)	学校公開
11/17(土)	3年進路保護者会
11/19(月)	代休
11/28(水)～11/30(金)	期末テスト
11/30(金)	小6部活動体験会

次回運営委員会 11月6日(火) 17:00～

♪裏面にて『校長の独り言』掲載中(^_^)vぜひご覧ください♪

☆各学年の様子☆

【1年生】 西中生として、初めての体育会。練習日程が大変短かったですが、いつも精一杯、本番まで40回生らしい元気な姿を存分に見せてくれました。音楽コンクール・文化祭でも、きっと素晴らしい力を発揮してくれることと思います。

中間考査を終えました。家庭での学習はいかがでしょうか。継続的な学習への取り組みができるように学校でも指導していきますので、ご家庭でもよろしくお祈りします。

【2年生】 39回生は、体育会后、11月のトライやる・ウィークの事前学習として、出前授業を行いました。企業の方にさせていただくお話は、私たち教師が聞いても大変面白いものもあり、子どもたちにとっても有意義なものになったと思います。

10月は音楽コンクール・文化祭があります。特に音楽コンクールはクラスの団結力が試されます。担任の先生を中心に「魂揺さぶる歌声」を披露できるよう頑張りますので、ぜひ生徒たちの歌声を聴いていただけたらと思います。

【3年生】 体育会では、最上級生としての意気込みが感じられ、本番だけでなく、練習はもちろん、会場の準備や片付け等、様々な場面で熱心に取り組むことができました。

次は音楽コンクール・文化祭です。文化部の生徒にとっては、部活動引退の場となります。毎日の練習で悔いを残さぬよう頑張ってもらいたいものです。そして、38回生の合唱にもご期待ください。きっと、3年間の思いのこもった歌になるとと思います。応援よろしくお祈りします。

専門部からの報告

【文化部】 制服リユースのご案内

- ・10/20(土) 文化祭当日 10:45~11:45 東校舎1階 会議室
 - * サイズ不明の品も多いため、子供さんのサイズを確認してください。
 - * リユース品を持ち帰るためのエコバッグをご持参ください。
- ・常時、リユース受付BOXを玄関に設置しております。
 - * 制服、体操服等は自宅での洗濯でかまいません。数が不足しているため、ご協力をお願いします。

【愛護部】 いつも愛護部へのご理解、ご協力ありがとうございます。

挨拶運動への御協力もありがとうございます。

【全学年】 引き続き、花一輪の活動をしています。参加される方、よろしくお願いします。

- ・11/16(金)・17(土) 学校公開デー受付もよろしくお願いします。お手伝いをお願いする方には、お子様を通じてお手紙をお渡ししています。日時をご確認の上、ご来校くださいますようお願いいたします。

【3年生】 11/17(土) 進路保護者会で卒業記念品代(1人1,000円)を集める予定です。

- * 案内書は文化祭終了後に配布する予定です。

音楽コンクール・文化祭について

- ・「ひとり一役運動」で文化祭のパイプいす片づけに応募された方は、ご協力よろしくお願いします。
- ・当日は多数の方が来校されるため、席取り、携帯電話・スマートフォンの使用、ビデオ撮影はマナーを守っていただきますよう、お願いします。

～陶芸販売をします!～

文化祭にて仲よし学級の生徒が作成した陶芸品を販売します。素敵な作品が多数出展されます。ぜひ、お越しください。(購入の際は小銭をご用意ください)

10:45~11:45、14:30~15:30 北校舎3階フロア



校長の独り言

校長 堀口和則

「犯人捜し」

私が小学校5年か6年のときのことでした。私が通う小学校では、連合音楽会の前に数か月間だけ臨時に召集される合唱部がありました。音楽の先生が歌の上手な生徒を30名程集め、放課後数か月間練習し、そのイベントに出演するというものでした。9割が女子で占められており、男子で選ばれることはなかなか難しかったのですが、数少ない男子のメンバーの1人として私が選ばれました。それまで私は普通の音楽の授業でメロディー（ソプラノ）しか歌ったことがなかったのですが、生まれて初めて難しい合唱曲のアルトというパートの練習をさせられました。パート別での練習までは順調に歌えるのですが、他のパートと合わせ始めると、他のパートの音が気になってうまく歌えなくなってしまいます。案の定合わせの練習をする段階になって問題が発生しました。ところどころで音楽の先生がピタリとピアノを弾くのをやめ「そこおかしいわ。誰か間違った音を出しているわ。誰かしら。」とおっしゃるのです。何度かやり直しをさせられる中で、私は「おかしい音を出しているのはもしかしたら自分かもしれない。」と思ったのです。なぜなら、私が小さい声で歌ったときには、先生のピアノを弾く手が止まることがほとんどなく、私が元気よく大きな声で歌うと「また、おかしい音を出している人がいる。」と言って、ピアノの伴奏が止まったからです。

運命の日がやってきてしまいました。いつものように練習をしていると、音楽の先生がピアノを弾くのをやめ、私のいるアルトパートの前に立ち、「もう、いったい誰なのかしら。このあたりの人なのよ。今日こそは誰が変な音を出しているのかをはっきりさせなきゃ。」とおっしゃってピアノ伴奏なしのアカペラで歌わせながら犯人捜しを始めたのです。そのとき私はおそらく自分が犯人だと確信に近いものを感じ始めてはいましたが、音楽の先生を目の前にして、クチパクで犯人捜しから逃れることもできず、小さな声で怯えながら歌い続けるしかありませんでした。

「あっ分かった。犯人は堀口君ね！」

こんな運命になるぐらいなら、代表になんか選ばれるんじゃないかな。私は顔から火が出るような恥ずかしい気持ちに駆られながら、その日の合唱練習を終えたのでした。

もしかすると私のカラオケ嫌いは、その時の後遺症かもしれません！？



「子どものためという愛の鞭」

ケースA: 気に入らないことがあると、関係のない兄弟姉妹や友人にいやがらせをするので、将来いじめに発展しないように、あえて強い口調で厳しく叱った。

ケースB: 兄弟姉妹や友人はもちろん、大人からも何か言われると、すぐにその人に向かって「死ね！」と言うので、命の大切さに気づかせ、将来人を傷つけることのないように、子どもが震え上がるくらいの強い調子で叱りつけた。



「厚生労働省—愛の鞭ゼロ作戦」

厚生労働省は、しつけと称して、叩いたり怒鳴ったりすることは、子どもの成長の助けにならないばかりか、悪影響を及ぼしてしまう可能性があるという警告を発して、次のポイントを挙げています。

(<http://sukoyaka21.jp/wp/wp-content/uploads/2016/08/ainomuchizero.pdf>)

- 子育てに体罰や暴言を使わない→恫喝し、恐怖を与えるだけで子どもの脳は傷つきます。
- 子どもが親に恐怖を持つと SOS を伝えられない→親の顔色を見て行動するようになります。
- 爆発寸前のイライラをクールダウン→自分のストレス解消に使わない。
- 親自身が SOS を出そう→自分だけで大変さを抱え込まず、いろいろな支援を利用する。
- 子どもの気持ちと行動を分けて考え、育ちを応援→一見悪い方向に進む発達もある。

「なぜ怒鳴ってはいけないのか」

う〜ん。そうすると、ケース A やケース B はいけないことなのではないでしょうか？ 二つのケースとも子どもの行動に問題があり、それを正しく導くことは大人のつとめとして当然ではないでしょうか？

子どもの虐待の専門家である福井大学友田明美教授によれば、体罰や暴言など厳しいしつけ(言語的虐待と見なされます)を経験した子どもは、脳に大きなダメージを受けると指摘しています。

暴言や虐待を受けると、話したり、人とコミュニケーションを取ったりする上で重要な脳の「聴覚野」という部分が変形し、人との言葉のやりとりがスムーズにいかなくなるかもしれません。

夫婦けんかの激しい言葉のやりとりを見聞きしただけでも、脳の「視覚野」の一部が萎縮して、トラウマ(心の傷)反応が生じやすく、知能や語彙理解力に悪影響がでます。

「たかが言葉、されど言葉」です。「愛の鞭」という美名の元で、少々強く言わないときかないという勝手な思い込みや暴力は振るっていないから大丈夫という安易な認識で、子どもを傷つけていませんか？ それでも「愛の鞭」を続けますか？このことは、パワハラとも関連があり、親だけでなく、子どもの育ちに関わるすべての大人への重大な警告として受け止める必要があります。

詳しくは、友田先生の「子どもの脳を傷つける親たち」(NHK 出版新書 523)をお読みください。

10月16日(火)、25日(木)の9:30~17:00にご相談を承ります。

事前予約は教頭先生(078-791-8444)に、当日予約はSC(090-5971-0637)にお願いします。